

## 多摩川 (東京、神奈川)

私は2006年に引っ越して、今現在野川の目の前にあるマンションに住んでいるが、引っ越す前はその野川が流れ着く川である**多摩川**の近くに住んでいた。近くといっても今のように目の前に川が広がっているという状況ではなかったが、それでも自転車に乗れば5分くらいで多摩川に着く場所であり、何かと足を運ぶことは多かった。そう考えると、私を育ててくれた川を挙げるとすれば、それは多摩川であろう。



今は毎日比較的小さい野川を見ているということもあるのだろうが、久しぶりに多摩川に行ったらその大きさやスケールに驚いた。野川を見慣れているということももちろんのこと、改めて川をじっくり見たということもそう感じた理由の一つなのかもしれない。ただ、昔見ていた多摩川との違いを感じたわけではなく、昔と変わらない多摩川を見てむしろほっとした。夏ほど芝は伸びてなく、空気は澄んでおり、雨もあまり降ってなかったからか、水も綺麗だった。新しく近くに出来た高層マンションも、多摩川の景観を壊すようなものではなかったことにも胸をなでおろした。また、その日は天気が良かったということもあり、老若男女様々な人たちが河原でそれぞれの時間を過ごしていた。季節外れのバーベキューをしている人、キャッチボールをしている人、はしゃぎ回っている子供たちなど様々である。寒い冬でさえも人々が集まる場所になっているのだと感じた。

私と多摩川との関わりを挙げていけば半ばきりが無い作業のような気がしないでもないが、私の記憶の中にある一番古い多摩川は、私が幼稚園児の頃に遠足のような形でみんなで歩いていった時の多摩川である。今考えれば多摩川は私の幼稚園から歩いてそう遠くない距離だったが、そのときはあたかも一大イベントのようだったという記憶がある。残念ながら断片的にしか覚えていないが、兵庫島公園という多摩川のところにある公園でみんなでお弁当を食べたことを覚えている。そのときは正直川に興味があったわけでもなかったもので、残念ながらそのときの川の様子を覚えてはいない。

また、多摩川における大きなイベントはやはり花火大会だった。毎年夏は花火大会を楽しみにしていた。一体どれだけの人がいるのだろうと思わせるような大勢の人が集まった花火大会だったが、あの時は多摩川の近くに住んでいるということを誇りに思っていたものだ。2007年も開催していたが、私が引っ越した時には大会は行われていなかったの

が非常に残念である。

個人的には運動といった面で多摩川の河原に世話になった。父親に連れられて多摩川の脇にあるゴルフ場に行ったこともある。クラブハウスからコースに行くまでに、船で川を渡る必要があったということが非常に印象的であった。船が通る時のエンジンの音を気にして、釣り人たちが船の方を見ていたということも印象的であった。また、頻りに父親や友達と一緒にキャッチボールやフリスビーをしに行っていた。人が多くてのびのびと出来ないという状況になったらすぐに家に帰ってこられたということもよかった。さらに、高校生になって体重が気になり始めた時には、多摩川でジョギングを行っていた。主に夜走ることが多かったが、毎日顔をあわせるジョガーもいて、川沿いを走るのは気持ちいいものであるということを確認した。もし家の近くに多摩川などの川が無く、ジョギングをしていなかったら、今頃生活習慣病になっているかもしれないと思うと、私は多摩川に感謝しなくてはならないだろう。

その他、犬の散歩で多摩川に行ったり、自転車で羽田空港の近くまで行ったり、大雨の日には多摩川に見に行き行って兵庫島が沈んでいるのを見たり、おたまじゃくしを採りに多摩川に行ったら季節はずれで結局採れなかったり、とにかく多摩川にはたくさんの思い出があるとと言えるだろう。しかしながら、共通して言えることは、多摩川そのものというよりも、ほとんどの思い出が多摩川の河原にあるということである。

では、何故多摩川の河原ではなく、川そのものの思い出があまりないのだろうか。一つの予測を立ててはいたが、両親に昔の多摩川の様子を聞いてみてその予測が正しかったという根拠を得ることが出来た。私の小さい頃のあいまいな記憶を元にとすると、私が小さい頃、多摩川は中に入って遊ぶような状況ではなかったのであるが、両親も同じ感想を持っていた。つまり、私が川の中に入ってはしゃぐような年齢の時は、多摩川はあまり綺麗な状態ではなかったということである。両親の話からすると、多摩川そのものももちろんのこと、河川敷もあまり綺麗ではなかったらしい。そこまでは私の記憶には無かったが、今現在の様子を考えると、多摩川は昔よりもはるかに綺麗になったと思わざるを得ない。とにかく、今とは違って、昔の多摩川はあまり綺麗な川でなくむしろ汚いというイメージが先行していたということである。

多摩川は有名な川であるということもあり、多数のウェブサイトが見つかる。例えばウィキペディアには多数の項目にわたって多摩川を説明している。以下はウィキペディアの主な記述であるが、多摩川は全長 138 Km で流域面積は 1240 km<sup>2</sup> である。名称の由来は諸説あるらしいが、上流にある丹波川との類似はよく指摘されるらしい。また、笠取山を源として小河内ダムより下流を多摩川と呼び、立川崖線や調布市、世田谷区などを通り最終的に川崎市と大田区との境で東京湾に注ぐが、源から考えると、山梨、東京、神奈川の3つの自治体を流れる川ということになる。さらに、流域には旧石器時代以降の遺跡

や古墳が見つかっており、多摩川の周りに昔から人が生活していたということがわかる。勾配が急だったため洪水が多く「あばれ川」と呼ばれることもあったが、1974年の旧江水害を最後に現在まで堤防が壊れたということはない。その他、多摩川に生息している動植物の紹介や、河口や河川敷の紹介があり、支流などの一覧、主要な橋の一覧、廃止された渡船の一覧などがある。

ウィキペディアの他にも多摩川に関連するウェブサイトはいくつもある。多摩川サイクリングマップというサイトには、多摩川沿いを自転車で走行するためのガイドがあり、主な区間な距離とおよその所要時間が明記されており、独自採点である各市区別の走りやすさガイドなどもある。ちなみに、私は二子玉川のあたりから羽田まで自転車でいったことがあったが、このサイトによると距離にして約18キロ、時間にして80分といったところだった。

多摩川の歴史から現在行われているクリーンアップ作戦のことまで非常に幅広く充実した情報を掲載しているのが京浜河川事務所のホームページである。ちなみに英語のサイトまで用意されている。これらのことからわかるように、多摩川に関するウェブサイトは非常に多い。実際グーグルでキーワード検索してみた結果、3,040,000件ヒットするのだから驚きである。ちなみに、花火大会で有名な隅田川でさえ1,150,000件で多摩川の3分の1ほどである。荒川にははるか及ばないものの、多くの多摩川に関係する情報や記事があると考えることが出来るだろう。

今まで述べてきたことから、多摩川は多くの人から愛されているということがわかる。多くの人が多摩川を訪れてそれぞれの時間を過ごしているということ、多摩川の花火大会も復活したこと、夜という時間帯でもジョギングをする人がいること、一昔前まではあまりきれいではなかった多摩川も今は綺麗な状態であるということ、多摩川に関するウェブサイトが非常に多く存在しているということなどはそれを示す要因のいくつかに過ぎないだろう。そして、多摩川は多くの人から愛されていると考えると、多摩川は今幸せなのではないかと思う。引っ越してしまっただけで多摩川に行く機会は減ってしまったが、久しぶりに行くことがあっても、いつまでも変わらない多摩川であって欲しいと思う。川というのは想像をはるかに超えて生活に密着しているものなのだと思う。今私は野川の近くに住んでいるが、いつも川の近くに住んでいるということは素晴らしいことだと実感している。

参考

“多摩川” [ウィキペディア](#)

<<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%9A%E6%91%A9%E5%B7%9D>>

[多摩川サイクリングマップ](#) <<http://www2c.biglobe.ne.jp/~Seishin/tamcm/index.htm>>

京浜河川事務所 < [http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/index\\_top.html](http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/index_top.html) >